

大学**アーカイブズ**

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2005.3.31 No.32

Eastern Japan Section, The Japanese
Association of College and University
Archives

2004年10月6日～8日 全国大学史資料協議会2004年度総会ならびに全国研究会

全国大学史資料協議会2004年度総会・ 全国研究会の記録

桃山学院史料室 西 口 忠
中央大学大学史編纂課 松 崎 彰

1. はじめに

2004年10月6日(水)から8日(金)まで、全国大学史資料協議会2004年度総会および全国研究会が京都大学と京都府立総合資料館を会場として開催され、西日本部会が担当した。

長崎大学における2003年度全国研究会のテーマ「『自校史教育』、『文書保存』について」は、京都大会につなぐものとして実施したが、それは2004年5月に京都大学大学文書館が開館するということがはつきりしていたからである。2004年4月に事前準備として西日本部会部会長校の立命館、副部会長校の関西学院、庶務校の桃山学院が京都大学で事前打ち合わせをおこなった。その結果、総会後の記念講演、二日目の国立・私学各二大学からの現状報告と、パネルディスカッション方式によるこの提起があり、三日目は京都府立総合資料館での史資料保存の現状や書庫および展示室の見学をするということでまとまり、後日京都府立総合資料館にも事前打合せに出向いた。

2. 全国役員会

10月6日(水)13時から、協議会役員会は京都大学百周年記念館にて開催した。出席は、東日本部会が神奈川大学(監査委員)・慶應義塾大学(副部会長校)・駒澤大学(運営委員)・中央大学(運営委員、事務局)・東海大学(運営委員)・東京経済大学(運営委員)・東洋大学(会計委員)・武蔵野

美術大学(運営委員、事務局)・明治大学(部会長)・谷本宗生(研究委員会)・西山伸(運営委員)、西日本部会が関西大学(会報担当)・関西学院(副部会長)・神戸女学院(幹事)・同志社大学(会計)・桃山学院(庶務)・立命館(部会長)・龍谷大学(監査)であった。

議題および議事内容は以下の通りであった。
(議題1)

2004-2005年度協議会役員の交代について
「全国大学史資料協議会規約」第6条、第3項にもとづいて役員交代を行い、会長を明治大学(=東日本部会長)、副会長を関西学院(=西日本部会長)とした。また、役員会の互選により、事務局に中央大学・武蔵野美術大学をそれぞれ選出した(就任は本年4月1日付け、任期は2年)。

上記の結果を総会に報告し、その承認を受けることを申合せた。

(議題2)

2004年度総会・全国研究会の運営について
*会の運営につき、「全国大学史資料協議会京都大会準備メモ」にそって挨拶・受付・司会等の担当者を定め、会場を設営した。
*大会参加費の徴収方法について、各部会幹事会にて再検討することを申合せた。

(議題3)

2004年度の東西両部会の共同事業について
*『研究叢書』第6号につき、編集担当を東日本部会とし、構成案作成後、両部会

にて検討することを申し合せた。

- *西日本部会より、全国大学史資料協議会パンフレットの改訂が提起され、各部会幹事会に委員会を置いて、編集作業に着手することを決定した。
- *東日本部会会长(明治大学)より、次年度の「総会および全国研究会」を東日本部会主催とし、東京で開催する予定であるとの報告があった(会場は慶應義塾を予定)。

(議題4)その他

- *東日本部会事務局(中央大学)より、事務連絡の効率化を目指してEメールを利用した連絡方法実施の報告と、参加希望者の募集があつた。

3. 総会・記念講演

同日14時10分より2004年度総会を百周年記念ホールにて開催した。議長に広島大学の小宮山道夫氏、副議長に武蔵野美術大学の石田順二氏を選出し、議事に入った。

第1議題「全国大学史資料協議会役員会の報告について」では、事務局(桃山学院西口氏)より全国役員会の審議経過が報告され、はじめに「役員交代の件」が提案されて全会一致で承認された。これにより、新会長には明治大学、副会長は関西学院、事務局には中央大学・武蔵野美術大学が就任した(本年4月1日付、任期2年)。次に、「協議会パンフレット改訂の件」が提案され、各部会に編集委員会を設置し、今年度中の刊行を目指したいとの説明があつた後、全会一致で原案が承認された。最後に、研究叢書第6号の発行については、東日本部会にて編集を担当し、来年度の刊行を目指したいとの提起があり、審議の結果、全会一致で承認された。

第2議題「2004年度東西両部会事業計画報告」では、東日本部会事務局(中央大学松崎氏)・西日本部会庶務(桃山学院西口氏)から、両部会の本年度事業計画が報告され、了承された。また、東日本部会より、幹事会中に3委員会を設置して部会運営にあたるとの報告があり、各委員会の委員長が紹介された。あわせて、事務連絡の効率化を目指したグループ・メール実施の報告と、参加希望者の募集があつた。

第3議題「その他」では、来年度の総会および全国研究会を東日本部会主催とし、東京にて開催する予定であるとの報告があつた。

総会終了後、協議会会长として2年間、その役割を担ってきた伊藤昇氏(立命館百年史

編纂室)より挨拶があり、休憩をはさんで、15時10分より記念講演を開催した。

記念講演では、京都大学大学文書館教授藤井讓治氏から会場挨拶と講師の紹介があつた後、同館の西山伸氏が「京都大学大学文書館の現状と課題」と題して講演をおこなった。西山報告は、2002年に設置された京都大学大学文書館の現状を組織・規則、施設、業務の3点から紹介し、今後の課題を指摘すると共に、「大学アーカイブズ論」への展望を開こうとする内容であった。はじめに、京都大学百年史編纂の終了と情報公開法施行を契機として設立された同文書館は、「京都大学における法人文書の管理に関する規程」により保存期間が満了した法人文書の移管先と位置づけられた学内機関であり、「京都大学大学文書館規程」によって運営され、同大学百周年時計台記念館に展示室・閲覧室・事務室を有する研究・教育施設である点が説明された。次に、同文書館の業務内容を、資料収集・資料整理・資料公開・調査研究・展示・広報教育等の6視点から解説され、各業務の現状や課題を手際よく紹介・整理された。なかでも、現状で約5万点を数える非現用法人文書の整理や公開については、同文書館の中核的な業務として精力的に取り組む必要があることを強調した。また、展示室は300m²の広さがあるが、現物資料は少なく、映像・模型を展示するとともに、学術情報メディアセンターと協同でCGの作成をおこなった。さらに、広報教育としては、授業・オープンキャンパスなどへの協力、教職員の研修、自校史教育、新入生少人数ゼミ、事務関係からの問い合わせ等の活動があるとの紹介があった。その上で西山氏は、「アーカイブズ」の基本要件を「組織運営のための資料」を収集・保存・公開する活動と位置づけ、この基本業務を中心にして他の活動を含み込んで行く「+αの論理」から、「大学アーカイブズ論」を構築すべきであると提起して報告を終えた。

講演終了後、西山氏・保田その氏(京都大学大学文書館)のご案内で、京都大学大学文書館(百周年時計台記念館歴史展示室、閲覧室、書庫)を見学し、引き続き17時30分より国際交流センターIにて、懇親交流会を開催した。熊博毅氏(関西大学)の司会により、協議会副会長の高橋正氏(関西学院)による挨拶と植田弘氏(同志社社史資料センター)による乾杯の発声によって始まった懇親会には、約80名の参加があり、各校の近況報告や交流を深め合う姿が随所に見られた。閉会の辞は武

正恒氏(慶應義塾)であった。

4. 全国研究会

10月7日(木)、10時10分より国際交流ホールIにて全国研究会を開催した。開会にあたって新会長校の鈴木秀幸氏(明治大学)から挨拶があった。司会進行として東日本部会から谷本宗生氏(東京大学)、西日本部会から西口氏(桃山学院)が担当することになった。

統一テーマは「大学アーカイブズのこれから」とし、旧国立大学における大学文書館設立の現状と、私立大学の資料保存、情報公開、組織の課題などを検討するパネルディスカッションを開催した。

午前中の最初の報告は、広島大学文書館の小池聖一氏「広島大学文書館の現状報告 平成16年度事業計画とその実施状況」であった。報告要旨は次のとおりである。国立大学法人化により個性化が始まった。副学長のもとに文書館を設置、4名の体制である。閲覧者は70名、来館者は300名となっている。またホームページの改訂をおこなった。文書館は公文書室と大学史資料室からなり、保存期間を越えた事務文書は公文書室で受け入れる。「広島大学の歴史」総合講座としておこない90名が受講した。文書整理は大学の政策立案に寄与する。展示については各種記念展示をおこなった。出張展示では多くの資料が集まつた。広島大学移転の中心人物であった竹下虎之助前広島県知事、平岡敬前広島市長・旧広島高商OB会長に対するオーラルヒストリーの取り組み、池田勇人記念館設立構想は地域との連携である。公開講座「我が家の近代史」の開設は地域資料の収集が期待される。地域資料の収集は地方にある大学として、国立大学として、大学を発展させるための中核機関となるだろう。

二番目の報告は名古屋大学大学文書資料室の山口拓史氏『『大学史』資料室から『大学文書』資料室へ』であった。報告要旨は次のとおりである。国立大学法人への変更により規程の変更があった。1995年、『名古屋大学50年史』編纂のため名古屋大学史編集室が組織され、翌年、名古屋大学史資料室となる。2001年4月には大学アーカイブズ志向組織として大学史資料室となった。同年10月、大学史資料室将来構想室が3年かけて大学文書資料室となった。このことによってLMA(Library、Museum、Archives)をそろえることができた。規程には「半現用」という概念を導入した。法人文書管理規定第8条の非現用文

書と半現用文書の一部を大学文書資料室が受け入れる。大学文書資料室は「歴史資料館」的役割と「公文書館」的役割をもつ。6年間の中期計画が公表されているが、本学情報公開の支援と記録史料の公開が求められている。大学文書資料室に期待されていることとして、大学文書業務に対する文書管理の支援をすること、記録史料については図書館・博物館と連携を図り記録史料の管理と活用をすることである。

休憩の後、明治大学史資料センターの鈴木秀幸氏から「広がる大学史活動」と題して三番目の報告があった。報告要旨は次のとおりである。一連の大学史に関する活動を鈴木氏は「大学史活動」と呼んでいる。活動の内的側面として調査・研究があり、外的側面として編纂・展示・教育普及などがある。1962年、80年史編纂のため委員会が設置されたが刊行できなかった。刊行のためには編纂のための予算と資料収集のための予算的裏付けが必要である。大学史資料センター事務室は事務長のほか、庶務担当がおり、専門職2名は大学院修了生、嘱託2名はオーバードクターである。明治大学史資料センター規程第8条に定める運営委員は教員、職員から推薦されるがやる気のある人を選ぶべきである。またセンターの目的を明確にすることが大切である。業務分野として「創立者」・「校友」・「地域」、活動項目として編集・展示・サービスがある。創立者3名の巡回展を地域、校友会支部と連携しておこなっている。また、三木武夫資料の寄贈があり搬入をおこなつたが、広島大学との共同研究として実施している。今後は、大学史活動を外に向いていくことが求められている。

最後は、立命館百年史編纂室の伊藤昇氏から「学園史料保存規程案の制定について」の演題で報告があった。報告要旨は次のとおり。立命館の年史は1953年刊行の『立命館創立50年史』である。前島省三氏が2~3年かけて精力的に記述したものであるが、叙述に際して使用された諸資料が散逸してしまった。一人にまかせて体制上の支えが欠如した弱点が明らかになった。そこで、1981年に立命館史編纂室が設置され、担当者は各部署を廻り、メモをとり、資料の目録カード化に努めた。しかし、目録カードと当該資料の不一致が露呈される破目になった。各部署は移転や課の統合廃止等で資料が分散、散逸したからである。この失敗を教訓にして、1980年代後半から新聞記事を含む諸資料の復刻をした『立命

館八十五年史資料集』(第1集から第8集)を刊行した。この『資料集』は、年史の執筆をするうえで極めて有効であった。現在われわれが執筆している『立命館百年史』通史第2巻は多くはこの『資料集』に負っているといつても過言ではない。さて、年史編纂をすすめる上で頭が痛いのは、資料の収集をいかに系統的に行うかという課題である。各部署が移転する時や室内の清掃する際に出されるゴミの中から貴重な資料を発見することが間々ある。いろんな機会に、処分する前に声をかけるように言っているがなかなか徹底しない現状にある。そこで、文書保存について学内でプロジェクトを立ち上げた。他大学への調査もおこなったが、規程はあっても多くの死文化している実態にあった。今回プロジェクトで「学園文書保存規程」(案)を作成したので、皆さまのご意見をうかがうことができれば幸いである。以上の四報告後、パネルディスカッションに入ったが、詳細については2005年度刊行予定の『研究叢書』第6号を参照されたい。

10月8日(金)は、京都府立総合資料館に会場を移し、見学会を開催した。入江錫雄氏(歴史資料課長)から「府立総合資料館の概要について」の講演があり、引き続いで渡辺佳子氏(歴史資料課資料主任)から「京都府行政文書について」の講演があった。京都府行政文書についての講演要旨は次のとおりである。「京都府庁文書」のうち永年保存文書が毎年約1,000冊が移管、これらの中には「移管しなければならない」という規定になっている。また、有期保存文書が選別され移管される。「京都府庁史料」は明治から戦前の永年指定された資料、編纂資料、京都府誌などである。「郡役所文書」は明治22年から大正15年までの文書、「宮津藩政記録」は廢藩置県前後の資料である。2002年6月に重要文化財指定を受けた明治元年から22年の郡役所、宮津藩文書は15,407点で継続的、体系的である。行政文書の閲覧制度としては、閲覧基準は学術調査研究が目的となっており、郷土研究など府民にいかにサービスできるかということをしている。京都府情報公開条例との関連では現在の行政に対する開示責任と位置付けられており、情報公開は閲覧目的を問わないことになっている。

質疑応答の後、四つのグループに別れて、展示場(第19回国宝当時百合文書展―足利義光と東寺―)、文書閲覧室・特別閲覧室、行政文書庫の見学をおこなった。

5. 参加者

大会参加者は、以下の通りであった。

<東日本部会>

愛知大学、青山学院、神奈川大学、皇學館大学、國學院大學、慶應義塾、駒澤大学、上智大学、成蹊学園、専修大学、創価大学、拓殖大学、中央大学、東海大学、東京経済大学、東京電機大学、東北大学、東北学院、東洋大学、東洋英和女学院、日本大学、日本女子大学、武蔵野美術大学、立教大学、明治大学、

秋山俱子(元日本女子大学)、井上高聰(北海道大学)、谷本宗生(東京大学)、西山伸(京都大学)、東田全義(元慶應義塾)、堀田慎一郎(名古屋大学)

<西日本部会>

大阪音楽大学、大阪国際学園、大阪商業大学、大谷大学、追手門大学、活水学院大学、関西大学、関西学院、近畿大学、京都産業大学、甲南大学、神戸国際大学、神戸松蔭女子学院、神戸女学院、西南学院大学、聖和大学、同志社女子大学、同志社大学、長崎大学、梅花女子大学・梅花短期大学、広島大学、福岡大学、桃山学院、立命館、龍谷大学

遠藤トモ(元梅花学園)、大西愛(大阪大学)、折田悦郎(九州大学)、河野仁昭(元同志社大学)、橋本弘之(元立命館)、原登久雄(元桃山学院)、保田その(京都大学)、山口拓史(名古屋大学)

東日本部会=46名(内訳: 24大学40名)

顧問・個人会員6名)

西日本部会=44名(内訳: 25大学36名、

個人会員8名)

総 計 =90名(内訳: 49大学76名、
顧問・個人会員14名)

オブザーバー 3名

会 場 校 佐々木丞平

(京都大学大学文書館長)

藤井 譲治

(京都大学大学文書館教授)

嘉戸 一将

(京都大学大学文書館助手)

平良 聰弘

(京都大学大学院文学研究科)

大学院生 加藤 基樹

(大谷大学大学院文学研究科)

日野 圭悟

(大谷大学大学院文学研究科)

森 剛史

(大谷大学大学院文学研究科)

全国大学史資料協議会2004年度総会ならびに全国研究会記念講演

西山伸氏「京都大学大学文書館の現状と課題」を聞いて

北海道大学附属図書館研究員 井 上 高 聰

西山伸氏による京都大学大学文書館の活動についての報告は今回が2回目である。前回は2001年度全国研究会における基調報告「京都大学大学文書館—設置・現状・課題—」であった。この報告では、大学文書館の設置経緯、規則類・施設・業務、そして課題が取り上げられた。このときは大学文書館が設立されて1年目にあたり、行政文書の選別作業や所蔵資料の公開といった大学文書館の核となる業務が未だ始まっていなかった。そのため、大学文書館の枠組みの全体像を明示するような内容が中心であった。

京都大学大学文書館は開館から4年を経て、既に法人文書の選別・廃棄作業や、閲覧業務が始まっている。今回はそうした大学文書館の具体的な業務を踏まえた報告がなされた。

報告は、「京都大学大学文書館の現状」として組織・規則・施設・業務の概要と、それに関わる「今後の課題」が紹介された。さらにそうした具体的な大学文書館の仕事の実績を踏まえ、「「大学アーカイブズ」論の手がかりとして」で大学アーカイブズのあり方の問題が提起された。私自身が現在、大学アーカイブズの設立準備に関わっているため、京都大学大学文書館における具体的な業務内容や仕事の進め方などに強い関心を持った。特に、保存期限を満了した法人文書の移管、個人情報を含む所蔵資料の公開の2点については、具体的な業務をイメージするために非常に参考になった。

移管されてくる文書のリストと文書そのものの照合作業の難航については、西山氏が報告で指摘した、移管リストに記載されている文書が実際には移管されて来ない、逆にリストに記載のない文書が移管されて来る、といった事例は想像していた。しかし、実物が書類一枚であったり、書類一式の箱詰めであったりといった場合もあり得ることには思い及ばなかった。移管されて来た文書のデータベース作成は、移管文書の選別作業と共に、大学アーカイブズの業務の中で難題であろうと想像してきたが、相当の労力を覚悟しなければ



講演する西山伸氏

ならないと再認識した。それと関わって、システム的に法人文書ファイル管理簿のデータをそのまま移管文書のデータベースに転用することは可能であるとのことで、データ入力が二度手間にならなくて済むため、この点では若干安心した。

個人情報を含む所蔵資料の取り扱いについては、大学アーカイブズ設立準備を進めていく段階で必ず問題になる。移管する側からは、文書を大学アーカイブズに移管するとすべて機械的に公開されてしまうのではないかという危惧が、「文書の公開の基準は?」という形の質問として投げかけられる。これまで私はそうした場合、「先行する大学アーカイブズでは、個人情報には十分配慮した対応をしている。北海道大学でもそうした具体例を参考にして対処することになる。すべて無条件に公開するわけではない」と回答してきた。今回の報告で、京都大学大学文書館では、

- 1) 基本的にいすれば公開する
- 2) ただし、原籍に関するもの、遺伝性疾病に関するものは半永久的に非公開とする

という具体的で明快な基準で運営していることが紹介された。先行する大学アーカイブズからそうした基準が示されたことは、大学各部署に対して文書移管を依頼していく場合の説明材料として非常に有益であった。

そのほか、正式開館からまだ1年であるということもあるが、閲覧者が必ずしも多くないという事実は少々意外に感じた。また、選

別作業の結果、移管されてきた文書の4割程度を当面保存することになったとの報告については、大学アーカイブズ設立準備において必要スペースを要求していく際に非常に参考になり、文書の選別作業を具体的に想定することが可能になった。

最後に西山氏が「大学アーカイブズ論」の手がかりとして提起した「+αの論理」については、私はうまく考えることができずにいる。法人文書をはじめとする大学関係資料を収集・整理・保存・公開するというニュートラルな姿勢を求められる業務と共に、主体的な姿勢で取り組む展示・研究・刊行物発刊・自校史教育などを「+α」として、大学アーカイブズのこれからの課題として位置づけようとしている。

カイブのあり方に位置づけようとするものである。北海道大学が構想している大学アーカイブズの規模を考えた場合、基本的な業務の遂行さえおぼつかず、「+α」を視野に入れていくことは難しい。しかし、他大学のアーカイブズが規模において恵まれているわけではないから、充実した個性的な活動をしている大学アーカイブズについて見聞きするたびにたじろぐばかりである。資料を所蔵するという大学アーカイブズの役割と、「+α」がどのように繋がるのかも、私には今ひとつ見えない。これらの問題は、今後、大学アーカイブズと関わりながら考えていきたいと思っている。

2004年度全国研究会パネルディスカッション

「大学アーカイブズのこれから」を聞いて

1. はじめに

全国大学資料協議会2004年度総会・全国研究大会の2日目の7日(木)に、今大会の中心となるパネルディスカッション「大学アーカイブズのこれから」が、京都大学百周年記念館内の国際交流ホールにおいて開催された。

午前中のプログラムは現状報告として広島・名古屋大学、午後には同じく明治・立命館大学の報告であった。

その後現状報告を行った各氏と前日記念講演を行った京都大学大学文書館 西山伸氏を加え、上記テーマによるパネルディスカッションが開催された。

2. 現状報告

まず4大学が行った現状報告について、簡略にまとめておきたいと思う。

現状報告①「広島大学文書館」

報告者 小池聖一氏

広島大学文書館は、2004年4月1日に設置された。文書館には公文書室と大学史資料室を置き、公文書室では大学の公的記録類を、大学史資料室では森戸辰男文書をはじめとする大学関係者の個人資料や、同大の沿革に関する資料を所蔵する。

成蹊学園史料館 伊藤昌弘

する記録、大学史に関わる刊公物等を所蔵。これら文書館が所蔵する記録等は、一般の利用に供している。

また、自校史教育として「広島大学の歴史」という講義を開講し、学生が大学の一員としてのアイデンティティーを形成する機会を提供している。

同文書館では公文書の保存・収集により大学の政策決定にフィードバックさせることを業務目標とし、そのため合理的な公文書管理方法として、法人文書作成マニュアル「組織公用文書ファイルによる文書管理マニュアル」を作成し事務局に提案している。また同文書館は広島大学の枠を越えて、地方大学として地域との連携、地域貢献を同文書館の活動理念としたいとの報告であった。

現状報告②「名古屋大学大学文書資料室」

報告者 山口拓史氏

名古屋大学大学文書資料室は1985年に開設された「名古屋大学史編集室」を起源とし、アーカイブズを志向した組織として2004年4月に開設された。

同大では情報公開社会における開かれた大学として、図書館および博物館との連携を視野に入れた大学アーカイブズを目指している。

同資料室開設にあたり、従来の大学史資料室が持つ歴史資料館的な機能に、公文書館的な役割が付加された。

同大で進行している中期計画に合わせ、同資料室では①大学情報公開の支援②記録史料の公開を活動の中核としている。また大学内の業務として事務局との連携を保ちながら、文書管理を支援し、図書館と博物館との連携のもと、記録史料の管理・活用を図っている。

同資料室では新しい記録管理システムとして「シームレス型記録管理システム」構築を試みているとの報告があった。

現状報告③「明治大学史資料センター」

報告者 鈴木秀幸氏

明治大学史資料センターは1962年の「歴史編纂資料室」を起源とし、2003年4月に開設された。

同センターは大学史活動の拠点として設置され、その目標として①大学の「顔」としての存在②帰属意識を認識する場③情報のサービス④伝統の維持・発展⑤大学史の開拓・構築を挙げている。

大学史活動を広げるためには、まず読ませる編集として、編纂の理念・観点を定め活動を行っている。次に見せる展示活動として、3人の創立者の出身地での巡回展示展、同大和泉校舎での展示活動を実施している。そして学外への教育・啓発のために、学内での自校史教育、社会人向け大学史講座、講演会活動を実施している。

同センターでは大学史活動をさらに広げるために、2004年に寄贈された約6万点にのぼる同大卒業生の三木武夫資料への挑戦がスタートしている。また大学間共同の調査・研究を今後模索し、さらに「大学史と世界史」というテーマにチャレンジしていきたいと報告された。

現状報告④「立命館大学百年史編纂室」

報告者 伊藤 昇氏

同大では百年史編纂を通じて二つの貴重な経験の紹介があった。まず1953年に50年史を刊行したが、その際に収集した資料は、資料の重要性の認識がなく散逸してしまったこと。また1980年代の館史編纂室時代には、学内の保存資料の調査を実施しカード化したが、資料の集中を実施しなかったため、カードは残っても資料がないという結果を生んでしまった。

そのため同編纂室では、1980年代後半に基盤資料として新聞資料を復刻、また85年略年史、100年史資料集を編纂し、これを現在百年史編纂に有効に利用しているとのことであった。

以上の経験から史料の一元管理、廃棄の規定を盛り込んだ、「学園史料保存規定」制定を進めているとの報告があった。

3. パネルディスカッション

パネルディスカッションでは現状報告を受けて質疑応答を中心とした。

◎名古屋大学山口氏から「シームレス型記録管理システム」の中で説明された「半現用」という概念について次のような説明があった。半現用(中間保管)の判断は現課が行い、管理権も厳密には現課だが、文書資料室では、これを保管し、廃棄・保管の評価選別を予備的に実施できる。また管理システムの周知方法については、文書管理担当者連絡会でコミュニケーションを図りながら学内へ浸透させている。

◎京都大学西山氏によれば一年間に事務局から移管される文書量はファイル数として約1,500である。

◎広島大学小池氏の話では、文書の保存期限については、統一性・継続性また組織変更などを考慮し、文書館で決めている。

◎公文書館法は国立大学に影響があったかとの質問に対し、国立3大学とも影響はなく、むしろ情報公開法が影響しているとのことである。また国立大学の文書は公文書かとの質問に対し、京都・名古屋大学は意識しておらず、広島大学は公文書と自覚しているとのことであった。

4. 感想

大学史を編纂するためには、その基礎となる史資料の収集が前提であることはどの大学においても共通の課題である。その意味でも今回のパネルディスカッションは、各大学の現状の貴重な報告を聞くことができ意義深かった。

大学の活動を記録する文書類は、単に年史編纂のためだけではなく、大学の政策決定過程での貴重な意見にもなり、また大学を通じた社会史の重要な資料とでもあるということを再認識した一日であった。発表を行った各氏に、心から御礼申し上げたい。

2004年11月25日(木) 研究会

見学会「深川江戸資料館・芭蕉記念館の見学と 周辺の史跡めぐり」に参加して

慶應義塾福澤研究センター 三瓶 美和子

全国大学史資料協議会東日本部会研究会(第43回)は、「深川江戸資料館・芭蕉記念館の見学と周辺の史跡めぐり」であった。高層ビルが林立し、景観が急速に変化しつつある隅田川沿岸(東京都江東区)に江戸情趣をとどめる史跡数ヶ所を訪ねた。今回の見学ツアーの水先案内人は、深川江戸資料館学芸員の久染健夫氏が担当してくださいました。落語のように軽妙な語り口の解説を聞きながら江戸の庶民文化に思いを巡らせる見学会であった。ご多忙中いかかわらずご尽力いただいた久染氏にはこの場を借りて御礼を申し上げたい。

・深川江戸資料館

1986年11月に開館した郷土資料館である。総合展示室へ一歩足を踏み入れると、猫の鳴き声がして、長屋の屋根の上に寝そべる猫ロボットが首を動かして来訪者を歓迎してくれる。その瞬間、江戸時代へとタイムスリップしたような感覚になる。江戸名所図会や浮世絵などの史料に基づき、1840年頃の深川の町並みが表通り、裏長屋、堀割の3つのゾーンに分けて実物大模型で再現されていた。まるで時代劇のセットのようだが、さすがに資料館の展示であると心感したのは、八百屋の店先に並ぶ野菜の1つ1つや屋台、草履のような小道具に至るまで忠実に造形している点であった。さらに照明で昼夜の変化をつけ、季節ごとに展示替えを行うなどの細部まで行き届いたサービス精神にも感激した。学芸員の方々の地道な努力と探究心に敬服した。ガラスケースごしに見るのではなく、実際に手で触れ、建物の中に入り、長屋の住人たちに感情移入ができる展示には、デジタル化の進む現代、映像だけでは味わうことができない生の説得力があると感じた。見学者を魅きつけ、再度訪問したい気持ちにさせる展示の好例をそこに見たような気がする。

・深川周辺散策(寺町、清澄公園ほか)

深川近辺は、江戸時代に急速に都市化が進み、また明暦の大火以降の再開発により、寺の転入、移転が繰り返され、高度に密集した



学芸員久染健夫氏による 深川周辺散策の様子

寺町が形成された。「靈巖寺」境内には江戸六地蔵、松平定信の墓などの史跡がある。往時は多くの修行僧が集まり、大学のキャンパスのように繁栄したそうである。その近隣の「本誓寺」では、明出身の本草学の薬学者で、徳川家康に重用された呂一官の墓を見学した。清澄公園は、現在は東京都の名勝の1つであるが、江戸期は久世大和守の下屋敷、明治期には岩崎弥之助の別荘という歴史を持つ。海運・水運業の財閥がこぞって景勝地を所有していた時代の面影を感じた。

・芭蕉記念館

隅田川の沿岸の俳聖松尾芭蕉に関わる史跡、芭蕉稻荷、史蹟展望庭園、そして江東区芭蕉記念館を見学した。芭蕉記念館は1981年開館の俳句ファン垂涎の資料館である。同館の学芸員、中村保名氏の解説により、芭蕉の生涯と業績についての予備知識を得た後、企画展「芭蕉生誕360年記念企画 芭蕉の風貌 画かれた俳聖」「和本にみる芭蕉・芭蕉庵」を見学した。日本文学史、特に俳句の歴史上、偉大な業績と影響を残した芭蕉への後世の人の親しみや尊敬が、絵画や書物を通じて今日に伝えられていることに感銘を受けた。

以上、所要時間2時間半ほどの見学会であったが、その地を訪れる人々に江戸時代の雰囲気を生き生きとした実感をもって紹介したいという、地元愛好家の方々の熱意が感じられる、充実した見学会であったと思う。

2005年1月20日(木) 研究会

青木直己氏（株式会社虎屋・虎屋文庫）報告 「企業アーカイブズの現状と活動」を聞いて

日本大学資料館設置準備室 小 松 修

第44回東日本部会研究部会は、2005年1月20日(木)に東京経済大学国分寺キャンパスで開催された。報告は虎屋文庫の青木直己氏による、「企業アーカイブズの現状と活動—株式会社虎屋文庫の事例を通して—」と題するテーマであった。企業史料協議会がビジネスアーキビスト養成講座を開催したり、博物館・資料館の海外視察を行うなど積極的な活動をしていることは承知していたが、今まで不勉強にも、企業アーカイブズについての話を直接聞いたことがなかったので、今回参加させていただいた。以下当日の資料を参考に、紙幅の関係もあるので、簡単に青木氏の報告概要と若干の感想を述べてみたい。

初めに青木氏は、企業アーカイブズの問題点と特徴を整理され、企業アーカイブズは、国・地方公共団体の公的アーカイブズとは基本的に性格が異なり、モノ資料を対象にすることが多いことなど、その多様性を強調された。最近の企業資料の保存と利用については、社史編纂以外にも広報活動、社内レファレンスのため資料室を重要視する企業も出てきたこと、経済的経営的視点のみではなく、歴史的・文化的価値の視点、企業の社会的な存在としての説明責任の観点が注目されてきたことを言及された。

次に虎屋文庫におけるアーカイブズの保存と利用について述べられた。組織としては、文庫長(部長)1名、課長1名、研究主幹1名、研究主査3名、研究主任3名の計9名で構成され、その内学芸員資格取得者が5名とのことである。スタッフの充実ぶりからしても、アーカイブズへの取り組む姿勢が示されているように思われた。主要業務として、和菓子文化を後世に伝えるため、関係資料の収集・調査・研究等を行い、研究成果は問い合わせへの対応、年2回の展示開催などに活かし、機関誌『和菓子』の刊行も行っている。社史刊行後も収集史料の目録化と史料収集を継続し、非現用資料については虎屋文庫で選別し



報告する青木直己氏

ているが、その基準についてはやはり苦労されているようである。この他にも虎屋黒川家文書のマイクロ化、レプリカ作成、聞き取り調査、電子文書への対応、資料のデジタル化、和菓子情報データベースの作成、社外への情報提供、社員研修会・学習会の講師派遣などを行ない、資料を経営資源として積極的に活用し、時代の要請にも応じた問題に取り組んでいる。最後にコスト意識の高い企業アーキビストには、ビジネスマンに加えて、学芸員あるいは調査・研究員としての複眼的な視点が必要で、機関はアーカイブズ、博物館の二つの機能を合わせもつことが要求されると指摘された。

青木氏の報告を聞きながら、虎屋文庫のアーカイブズの事例は大学アーカイブズと共通点が多いと感じた。企業アーカイブズは、記録史料ばかりでなく、モノ資料など多様な資料を取り扱わなければならないとのことであるが、本学は多分野にわたる総合大学であるため、さまざまの資料に対応しなければならず、設置予定の資料館はアーカイブズとミュージアムの両機能を備えたものを計画している。学内における認知度はまだまだ低く、現在資料館の業務をどのようにするか模索中であり、いろいろ参考とさせていただくことが多い報告であった。

**全国大学史資料協議会2004年度
総会・記念講演議事録(抄)**

日 時 2004年10月6日(水)14時10分～
 会 場 京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール
 出 席 <東日本部会>
 愛知大学、青山学院、神奈川大学、
 慶應義塾、皇學館大学、駒澤大学、
 上智大学、成蹊学園、専修大学、
 創価大学、拓殖大学、中央大学、
 東海大学、東京経済大学、
 東洋英和女学院、東洋大学、
 東北学院、日本女子大学、日本大学、
 武藏野美術大学、明治大学、立教大学
 東田全義
 (元慶應義塾福澤研究センター)、
 秋山俱子
 (元日本女子大学成瀬記念館)、
 井上高聰(北海道大学附属図書館)、
 谷本宗生(東京大学史史料室)、
 西山 伸(京都大学大学文書館)、
 堀田慎一郎
 (名古屋大学大学文書資料室)
 オブザーバー
 荒井明夫(大東文化大学)
 <西日本部会>
 大阪国際大学、大阪商業大学、
 大谷大学、追手門大学、活水学院大学、
 関西学院、関西大学、京都産業大学、
 近畿大学、甲南大学、神戸国際大学、
 神戸松蔭女子学院、神戸女学院、
 聖和大学、西南学院大学、同志社大学、
 同志社女子、長崎大学、
 梅花女子大学、広島大学、桃山学院、
 立命館、龍谷大学
 遠藤トモ(元梅花学園資料室)、
 大西 愛(大阪大学出版会)、
 折田悦郎(九州大学大学史料室)、
 河野仁昭(元同志社社史資料室)、
 橋本弘之(元立命館百年史編纂室)、
 原 登久雄(元桃山学院年史委員会)、
 保田その(京都大学大学文書館)、
 山口拓史
 (名古屋大学大学文書資料室)
 オブザーバー

阿部武司
 (大阪大学大学院経済学研究科)
 東日本部会=47名(内訳: 23大学40名、個人会員他6名、オブザーバー1名)
 西日本部会=42名(内訳: 22大学33名、個人会員他8名、オブザーバー1名)
 総 計=89名(内訳: 45大学73名、個人会員他14名、オブザーバー2名)
 *欠席届
 東日本部会=10会員(内訳: 8大学、個人会員2名)
 西日本部会=5会員(内訳: 2大学、個人会員3名)
 総 計=15会員(内訳: 10大学、個人会員5名)
 <会場校> 藤井 譲治
 (京都大学大学文書館教授)、
 嘉戸 一将
 (京都大学大学文書館助手)、
 平良 聰弘
 (京都大学大学院文学研究科)
 <大学院生>加藤 基樹
 (大谷大学大学院文学研究科)、
 日野 圭悟
 (大谷大学大学院文学研究科)、
 森 剛史
 (大谷大学大学院文学研究科)
 開 会 司会 桃山学院 西口 忠氏
 (西日本部会庶務)
 中央大学 松崎 彰氏
 (東日本部会事務局)
 議長選出
 議 長 広島大学 小宮山道夫氏
 副議長 武藏野美術大学 石田 順二氏
 議 題
 1. 全国大学史資料協議会役員会の報告について(承認事項)
 事務局(桃山学院西口忠氏)より、全国役員会での審議経過が報告され、「役員交代の件」が提案され、全会一致で承認された。これにより、新会長には明治大学、副会長は関西学院、事務局には中央大学・武藏野美術大学が就任した(本年4月1日付、任期2年)。
 次に、「協議会パンフレット改訂の

件」が提案され、各部会に編集委員会を設置し、今年度中の刊行を目指したいとの説明があった後、全会一致で原案が承認された。

また、研究叢書第6号の発行については、東日本部会にて編集を担当し、来年度の刊行を目指したいとの提起があり、審議の結果、全会一致で承認された。

2. 2004年度東西両部会事業計画報告（報告事項）

東日本部会事務局(中央大学松崎彰氏)・西日本部会庶務(桃山学院西口忠氏)から、配布資料に基づいて両部会の本年度事業計画が報告され、了承された。

また、東日本部会より、幹事会中に3委員会を設置し、部会運営の方式を改めたとの報告があり、各委員会の委員長が紹介された。あわせて、事務連絡の効率化を目指してEメールを利用した連絡方法実施の報告と、参加希望者の募集があった。

3. その他

来年度の総会および全国研究会は、東日本部会主催とし、東京にて開催する予定であるとの報告があった。

挨 拶 立命館

伊藤 昇氏

(前全国大学史資料協議会会長)

記念講演 15時00分～17時30分(公開講演)

会長挨拶 明治大学

鈴木 秀幸氏

(全国大学史資料協議会会長)

会場校挨拶 京都大学大学文書館

藤井 讓治氏

(大学院文学研究科教授)

講師 西山 伸氏(京都大学大学文書館)

演題 「京都大学大学文書館の現状と課題－『大学アーカイブズ論』への手がかりとして－」

概要 西山報告は、2002年に設置された京都大学大学文書館の現状を組織・規則、施設、業務の3点から紹介し、今後の課題を指摘すると共に、「大

学アーカイブズ論」への展望を開こうとする内容であった。

はじめに、京都大学百年史編纂の終了と情報公開法施行を契機として設立された同文書館は、「京都大学における法人文書の管理に関する規程」により保存期間が満了した法人文書の移管先と位置づけられた学内機関であり、「京都大学大学文書館規程」によって運営され、同大学百周年時計台記念館に展示室・閲覧室・事務室を有する研究・教育施設である点が説明された。

次に、同文書館の業務内容を、資料収集・資料整理・資料公開・調査研究・展示・広報教育等の6視点から解説され、各業務の現状や課題を手際よく紹介・整理された。

その上で西山氏は、「アーカイブズ」の基本業務を中心にして他の活動を含み込んで行く「+αの論理」から、「大学アーカイブズ論」を構築すべきであると提起して報告を終えた。

以上、講演の詳細については、『研究叢書』第6号に収録予定の西山氏の論考を参照されたい。

見 学 講演終了後、西山氏・保田その氏(京都大学大学文書館)のご案内で、京都大学大学文書館(百周年時計台記念館歴史展示室、閲覧室、書庫)を見学した。

懇親交流会 同日 17時30分～19時

講演会終了後、17時30分から京都大学百周年時計台記念館(国際交流ホールⅠ)において、懇親交流会を開催した。懇親会は、副会長高橋正氏(関西大学)開会の辞と、植田浩氏(同志社)による乾杯の発声で始まり、終始明るい雰囲気の中で各会員間の情報交換が活発に行われ、新会員・新参加者の紹介や現状報告も交えて親睦が深められた。閉会の辞は、武正恒氏(慶應義塾)、司会進行は熊博毅氏(関西大学)であった。

(参加者・78名)

全国大学史資料協議会2004年度 役員会議事録(抄)

(第59回全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会)

日 時 2004年10月6日(水)13時~13時40分
場 所 京都大学百周年時計台記念館
国際交流ホールIII
出 席 (東日本部会)
神奈川大学(監査委員)、
慶應義塾(副部会長・会計委員)、
駒澤大学(運営委員)、
中央大学(運営委員・事務局)、
東海大学(運営委員)、
東京経済大学(運営委員)、
東洋大学(研究委員会)、
武蔵野美術大学(運営委員・事務局)、
明治大学(部会長)、
谷本 宗生(研究委員会)、
西山 伸(運営委員)
(西日本部会)
関西大学(副部会長・会報担当)、
関西学院(部会長)、
同志社大学(会計)、桃山学院(庶務)、
立命館(監査)、龍谷大学(幹事)、
大西 愛(幹事)

議 題 (1)2004-2005年度協議会役員の交代について
「全国大学史資料協議会規約」第6条、第3項にもとづいて役員交代を行い、会長を明治大学(=東日本部会長)、副会長を関西学院(=西日本部会長)とした。また、役員会の互選により、事務局に中央大学・武蔵野美術大学をそれぞれ選出した(就任は本年4月1日付け、任期は2年)。上記の結果を総会に報告し、その承認を受けることを申し合わせた。
(2)2004年度総会・全国研究会の運営について
*会の運営につき、「全国大学史資料協議会京都大会準備メモ」にそつて挨拶・受付・司会等の担当者を定め、会場を設営した。
*大会参加費の徴収方法について、

各部会幹事会にて再検討することを申し合わせた。

(3)2004年度の東西両部会の共同事業について

*『研究叢書』第6号につき、編集担当を東日本部会とし、構成案作成後、両部会にて検討することを申し合わせた。

*西日本部会より、全国大学史資料協議会パンフレットの改訂が提起され、各部会幹事会に委員会を置いて、編集作業に着手することを決定した。

*東日本部会会長(明治大学)より、次年度の「総会および全国研究会」を東日本部会主催とし、東京で開催する予定であるとの報告があつた(会場は慶應義塾を予定)。

(4)その他

*東日本部会事務局(中央大学)より、事務連絡の効率化を目指してEメールを利用した連絡方法実施の報告と、参加希望者の募集があつた。

全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録(抄)

第60回 2004年11月25日(木)13時~14時
場 所 深川江戸資料館 予備室
出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
東海大学 東京経済大学 東洋大学
武蔵野美術大学 明治大学
谷本 宗生 西山 伸
議 題 (1)報告事項 各委員会より
*編集委員会
神奈川大学齊藤委員長より、「大学アーカイブズ」31号6ページに掲載の東日本部会総会議事録の出席校のリストに関東学院が抜けており、32号にてお詫び、訂正するとの報告があつた。また東海大学加瀬委員より、『研究叢書』第6号は、今年度の京都大会の報告をテーマとし、平成17年7月刊行を

目指すとの報告があった。今年度大会の担当は西日本部会であり、叢書担当部会と逆になっていることについては、次回大会までに検討することとなった。また、今後は編集委員会が編集権限により編集を進めることを申し合わせた。

*研究委員会

東京経済大学中村委員長より、来年1月の研究会の内容は現在未定だが、12月中に案内出来るようにするつもりであるとの報告があった。また、企業史料協議会主宰の第9回ビジネスアーキビスト研修講座の案内があり、大学史資料協議会メンバーも会員扱いの受講料で受講出来る旨報告があった。

*特別委員会

京都大学西山委員長より、「日本の大学アーカイブズ（仮称）」原稿の提出状況と、市販することを前提に出版社（京大学術出版会）と協議した際に一般の大学アーカイブズへの認知度はまだ低いため、包括的な大学アーカイブズ論と大学史資料論の掲載を求められたとの報告があった。これを受け、第一部に大学アーカイブズ論と大学史資料論をそれぞれ新規に追加掲載することを決定した。第二部の原稿で内容に差があるものについては、個別に修正・加筆を依頼済みである。また、原稿提出後に大きな組織変更があった大学は同字数内で修正を行い、第三部では新規加盟校にも執筆を依頼することとなった。その結果、当初目途としていた刊行時期を2005年5月から同年12月へと変更することを決定した。また、今後はタイトルから（仮称）を取ることが提案され、了承された。その他、サイズはA5版、総頁は360頁超と予想されることが報告された。なお出版に当たっては助成の途を探すことと

なった。

(2)全国大会参加費の徴収方法等について

*今年度、大会参加費の徴収方法について東西部会で意見が多少食い違いがあったとの報告があったが、次年度は従来通りの徴収方法とするこれを確認した。院生等への対応については別途考え、開催前に両部会で詰めておくこととする。

(3)全国大会実行委員会（仮称）の設置について

*次年度の総会、全国研究会は東日本部会の担当であるが、全国研究会の企画、準備、実施等に当たる実行委員会を設置することとなった。構成等については次回幹事会で詰めることとした。

(4)本協議会のパンフレット作成について

*現行のパンフレットは1998年に作られたもので掲載内容も古いため、改訂版を作成することとなった。デザイン、レイアウトは武藏野美術大学が担当し、次回幹事会までにたたき台を用意することになった。

(5)その他

*淑徳大学から6月に退会の申し出があった。今年度会費は納入済みのため、今年度末の退会とすることを了承した。なお同大学の意向により今後の資料送付はしないこととした。

*大東文化大学から入会希望があり、諮詢の結果申請のあった11月15日付での入会を了承した。

第61回 2005年1月20日(木)

13時30分～14時30分

場 所 東京経済大学国分寺キャンパス
6号館7階大会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
駒澤大学 東海大学 東京経済大学
武藏野美術大学 明治大学

西山 伸 豊田 徳子

議 題 (1)報告事項 各委員会より

*編集委員会

神奈川大学齊藤委員長より「大学アーカイブズ」32号について、2004年度全国総会ならびに全国研究会を主として取り上げ、併せて第60・61回幹事会、第43・44回研究会の記録を掲載するとの報告があり了承された。毎年3月号に掲載している東日本部会規約と会員名簿も載せる予定。また東海大学加瀬委員より、『研究叢書』第6号の構成案と仕様案の報告があり了承された。表題は『大学アーカイブズのこれから-2004年度総会ならびに全国研究会の記録-』とし、第1章は記念講演と研究報告、第2章は総会ならびに全国研究会の概要をまとめる。来年度9月発刊の予定。なお次年度からは、10月の大会開催時に原稿を依頼し、その2~3ヶ月後には原稿が完成するようなスケジュールを目指すこととなった。また現在、同一年度で総会担当と研究叢書担当が東西部会で分かれてしまっているが不都合も多い。研究叢書を今年度に引き続き担当する形でねじれを修正する方向で、西日本部会と調整することとなった。

*研究委員会

東京経済大学中村委員長より、企業史料協議会・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会と、これまで2回合同研究会を行ったが、今年度からは共催の立場を離れることとなっている。しかし情報の共有は必要である。両協議会共催の合同研究会の開催のお知らせが来たのでご案内する旨の報告があった。

*特別委員会

京都大学西山委員長より、『日本の大学アーカイブズ』の原稿を印刷業者に出す前に、見出しや年代

表記の統一をはかるための要項を作成し、幹事会に連絡するとの報告があった。

(2)協議会新パンフレット作成について

*武藏野美術大学より新パンフレットのデザイン案のたたき台が配付され、1996年の旧バージョン以来の変更点・活動内容で増えた内容をどのようにまとめるか同大学より意見が求められた。それに対し、沿革と活動記録で内容が重なっている部分は表で整理し、研究会の見学先は代表的なもののみを取り上げる等の意見が出され、長期にわたり使用できるパンフレットを目指して次回幹事会までに改良することとなった。

(3)2005年度東日本部会総会について

*総会の会場校について諧ったところ、東洋大学豊田氏から会場提供の意向があったため、東洋大学を会場とし、会期を5月下旬~6月上旬とする方向で豊田氏に調整してもらうこととなった。

(4)その他

*東京経済大学中村研究委員会委員長より、3月の研究会は、まず2~3の大学が現状について問題提起をし、それについて他大学が意見を交換する場とする方向で研究委員会で検討を進めるとの報告があった。また、今後の研究会で使用出来る無料スペースについての情報交換も行いたいとの提案があった。

**全国大学史資料協議会
東日本部会研究会記録（抄）**

第43回 2004年11月25日(木)

14時00分~16時30分

場 所 深川江戸資料館

出 席 名誉会員 東田全義

法人会員 神奈川大学 関東学院

慶應義塾大学 国學院大學
駒澤大学 上智大学 拓殖大学
東海大学 東京経済大学 東洋大学
武蔵野美術大学 明治大学
個人会員
谷本宗生(東京大学史史料室)、
西山伸(京都大学大学文書館)
(以上23人)

内 容 「深川江戸資料館・芭蕉記念館の見
学と周辺の史跡めぐり」
解説・案内
久染健夫氏(深川江戸資料館学芸員)
中村保名氏(芭蕉記念館学芸員)
*深川江戸資料館内の見学ののち、
久染氏の案内により、深川の靈巖寺、本誓寺墓地、清澄公園、芭蕉稻荷、史跡展望庭園(芭蕉記念館分館)を巡検した。最後に、芭蕉記念館にて、学芸員の中村氏の解説により見学を行った。江戸情緒を味わう研究会であった。
(駒澤大学 皆川義孝)

第44回 2005年1月20日(木)
14時30分～16時30分
場 所 東京経済大学国分寺キャンパス
出 席 名誉会員 東田全義
法人会員 神奈川大学、
慶應義塾大学、國學院大學、
駒澤大学、上智大学、成蹊大学、
東海大学、東京経済大学、東洋大学、
日本大学、明治大学、
武蔵野美術大学
個人会員
西山伸(京都大学大学文書館)
オブザーバー
相田文三(東京都立大学)、
太田和子(国分寺市教育委員会)
(以上28人)

報 告 青木直己氏
(株式会社 虎屋 虎屋文庫)
「企業アーカイブズの現状と活動
-株式会社 虎屋
虎屋文庫の事例を通して-」

概 要 青木氏はまず、企業アーカイブズを、

記録史料をモノとして保存し、それを整理したのち情報化して社内外の利用に供することを目的とする機関として位置づけた。そして企業に伝存する記録史料の保存契機や目的を顕型化した上で、企業史料を「経営資源」として活用する事の重要性などを論じた。その上で、虎屋文庫の歴史的背景、現在の諸活動などが紹介され、社史編纂資料収集の方法として、収集後における仮目録作成の重要性などが示された。編纂後の継続的な収集活動についても、非現用文書の受入と評価選別、電子決裁文書の収集方法などが述べられ、かけられるコストに応じた収集基準の明確化の重要性が指摘された。最後に、公文書館法の境外にあり、コスト意識の高い企業に設置されるアーカイブズでは、アーキビストはビジネスマンと専門職の複眼的な視点が求められ、機関はレコードセンターや博物館の機能をあわせ持つ、総合資料センターとして考えるべきだろうとの論が提示された。会場からは、非現用文書の廃棄基準と方法、組織上におけるありかた、社内に対する資料保存の意義の普及方法などについて質疑が行われた。

(東海大学 加瀬 大)

全国大学史資料協議会東日本部会規約

(名 称)

第1条 本会は、全国大学史資料協議会東日本部会と称する。

(目的)

第2条 本会は、全国大学史資料協議会を構成する部会として、大学史に関する情報交換と研究、並びに会員相互の質的向上と交流をはかることを目的とする。

(事 業)

第3条 前条の目的を達成するため次の事業

を行う。

- (1)大学史に関する情報交換
- (2)史資料の収集、保存、利用に関する研究
- (3)研究会(研修会)、講演会の開催
- (4)会報等の発行
- (5)その他、前条の目的遂行に必要な事項

(会員)

第4条 会員は、この規約の趣旨に賛同する東日本の大学・短期大学等をもって構成する。

- 2. 個人会員については別に定める。

(入・退会)

第5条 入会は、所定の入会申込書を会長に提出し、幹事会の承認を受ける。

- 2. 退会は、書面により会長に届出る。

(名誉会員)

第6条 本会に名誉会員をおくことができる。

- 2. 名誉会員の推薦は、総会において行う。

(幹事)

第7条 本会に次の幹事をおく。

- (1)会長 1校
- (2)副会長 1校
- (3)運営委員 若干
- (4)会計委員 2校
- (5)監査委員 2校

(幹事の職務)

第8条 会長は本会を代表し、会務を掌握する。

- 2. 副会長は会長を補佐し、会長に支障ある時はその職務を代行する。
- 3. 運営委員は本会の運営につき審議・執行する。
- 4. 会計委員は本会の会計を担当する。
- 5. 監査委員は本会の経理を監査する。
- 6. 幹事は、全国大学史資料協議会を構成する西日本部会幹事とともに、全国協議会の役員会を構成し、その運営を協議・決定する。

(幹事の選出及び任期)

第9条 幹事は総会で選出し、任期を2年とする。但し再任は妨げない。

(会議)

第10条 本会に次の会議をおく。

- (1)総会
- (2)幹事会
- (3)委員会

(総会)

第11条 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

- 2. 通常総会は、年1回(5月)開催する。
- 3. 臨時総会は、幹事会が必要と認めたとき、もしくは、会員校の三分の一以上の要求があったときに開催する。
- 4. 総会は会長が招集し、議長は会員校中から選出する。
- 5. 総会は、会員校三分の二以上の出席をもって成立し、出席校の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
なお、欠席届をもって委任状とみなすことができる。
但し、その場合、議決権は認めない。
- 6. 総会は、次の事項を審議する。
 - (1)事業計画及び事業報告
 - (2)予算及び決算
 - (3)その他重要な事項
- 7. 総会における決定事項は、全国大学史資料協議会の総会に報告しなければならない。

(幹事会)

第12条 幹事会の構成は、会長、副会長、運営委員、会計委員とし、監査委員は出席して意見を述べることができる。

- 2. 幹事会は会長が招集し、会の常務について審議する。
- 3. 議長は会長が務め、議決は三分の二以上を要する。

(事務局)

第13条 事務局は、幹事の互選により選出された大学におく。

- 2. 事務局は、会事務全般を担当する。
- 3. 事務局は、全国大学史資料協議会を構成する西日本部会事務局とともに、全国協議会事務全般を担当する。

(委員会)

第14条 幹事会の会務執行上、必要に応じて

委員会を設けることができる。

2. 委員会については、別に定める。

(経費・会計)

第15条 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってあてる。

2. 会費は、1会員校につき年額20,000円とする。
3. 会費は、毎年7月末日までに、その年度分を納入しなければならない。年度途中において加入した会員は、その1ヶ月後までに納入することとする。
納入された会費は返却しない。
4. 会費を2年以上滞納した会員は、退会扱いとする。

(事業年度及び会計年度)

第16条 事業年度及び会計年度は、毎年4月1日から翌年3月末日までとする。

(決算報告)

第17条 決算報告は、監査委員の監査を得てその証明書を添付し、通常総会に報告する。

(規約の変更)

第18条 この規約は、総会出席者の過半数の賛同をもって変更することができる。

付 則

1. 本規約の実施に必要な細則は、幹事会の議を経て定める。
2. この規約は1996年4月1日から施行する。なお、本規約の施行にともない「東日本大学史連絡協議会規約」は廃止する。
3. この規約は2000年4月1日から施行する
(第14条改正・追加)
4. この規約は2004年4月1日から施行する。
(第6条(名譽会員)追加、以下条数変更)
(第7条幹事定数改正・顧問削除)
(第9条顧問削除)
(第10条部会削除、委員会追加)
(第14条分科会削除、委員会追加)
(第1条・第2条・第7条・第8条・第10条・第11条・第12条・第13条・第15条字句訂正)
5. 2004年5月19日総会の議決にもとづき、同年7月16日幹事会にて字句調整。

(第5条・第7条・第8条・第11条・第12条・第13条字句訂正)

全国大学史資料協議会

東日本部会会員名簿

(2005年4月1日現在)

名誉会員

竹市 知弘・城田 秀雄・東田 全義

会員校名 担当部課室／住所・電話他

1 愛知大学 総務課

〒441-8522 豊橋市町畠町1-1

電話:0532-47-4111

FAX :0532-47-4132

2 青山学院 資料センター

〒150-8366 渋谷区渋谷4-4-25

電話:03-3409-6742

FAX :03-3409-8134

URL : <http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/>

3 学習院 学習院史資料室(休会扱い)

〒171-8588 豊島区目白1-5-1

電話:03-3986-0221

FAX :03-5992-1068

4 神奈川大学 大学資料編纂室
(監査委員)

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

電話:045-481-5661

FAX :045-491-7915

5 関東学院 学院史資料室

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

電話:045-786-7049

FAX :045-786-7862

URL : <http://www.kanto-gakuin.ac.jp>

6 慶應義塾 福澤研究センター

(副部長会・会計委員)

〒108-8345 港区三田2-15-45

電話:03-5427-1603

FAX :03-5427-1605

URL : <http://www.fmc.keio.ac.jp>

7 恵泉女学園 史料室

〒156-0055 世田谷区船橋5-8-1

電話/FAX :03-3303-6920

8 皇學館大学 館史編纂室

〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704

- 電話:0596-22-6817
- 9 國學院大學 総務部校史資料課
(会計委員)
〒150-8440 渋谷区東4-10-28
電話:03-5466-0104
URL : <http://www.kokugakuin.ac.jp>
- 10 国際基督教大学 図書館大学史資料室
〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2
電話:0422-33-3306, 3308
FAX : 0422-33-3305
- 11 国士館 理事長室広報課
〒154-8586 世田谷区若林4-31-10
電話:03-5481-3118
FAX : 03-5481-3208
URL : <http://www.kokushikan.ac.jp>
- 12 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
(運営委員)
〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1
電話/FAX:03-3418-9614
URL : <http://www.komazawa-u.ac.jp/~zenbunka/index.htm>
- 13 実践女子学園 総務部
〒191-8510 日野市大坂上4-1-1
電話:042-585-8800
FAX : 042-585-8808
- 14 自由学園最高学部 自由学園資料室
〒203-8521 東久留米市学園町1-8-15
電話:0424-22-3111(内)217
FAX : 0424-22-1078
URL : <http://www.jiyu.ac.jp>
- 15 上智大学 総合調整室別室
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1
電話:03-3238-3294
FAX : 03-3238-3539
- 16 聖学院 本部理事長室
〒114-8574 北区中里3-12-2
電話:03-3917-8332
FAX : 03-3940-3798
- 17 成蹊学園 総務部広報課
〒180-8633 武藏野市吉祥寺北町3-3-1
電話:0422-37-3517
FAX : 0422-37-3704
URL : <http://www.seikei.ac.jp/index.html>
- 18 成城大学 教育研究所
〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20
- 電話:03-3482-1484
FAX : 03-3482-5272
- 19 専修大学 総務部大学史資料課
〒101-8425 千代田区神田神保町3-8
電話:03-3265-5879
FAX : 03-3265-5923
- 20 創価大学 創価教育研究センター
〒192-8577 八王子市丹木町1-236
電話:0426-91-5623
FAX : 0426-91-5654
- 21 拓殖大学 創立百年史編纂室
〒112-8585 文京区小日向3-4-14
電話:03-3947-7140
FAX : 03-3947-7294
- 22 玉川大学 教育博物館
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
電話:042-739-8656
FAX : 042-739-8654
URL : <http://www.tamagawa.jp/research/museum/>
- 23 多摩美術大学 70年史編纂室
〒158-8558 世田谷区上野毛3-15-34
電話:03-3702-1168
FAX : 03-3702-9416
- 24 大東文化大学 総務部総務課
〒175-8571 板橋区高島平1-9-1
電話:03-5399-7309
- 25 千葉商科大学 総務第二課史料編纂係
〒272-8512 市川市国府台1-3-1
電話:047-372-4111
FAX : 047-373-4283
- 26 中央大学 大学史編纂課
(運営委員・事務局)
〒192-0393 八王子市東中野742-1
電話:0426-74-2132 (直)
FAX : 0426-74-2203
- 27 津田塾大学 津田梅子資料室
〒187-8577 小平市津田町2-1-1
電話:042-342-5219
FAX : 042-342-5249
- 28 東海大学 学園史資料センター
(運営委員)
〒259-1292 平塚市北金目1117
電話:0463-50-2450 (直)
FAX : 0463-50-2449

- 29 東京基督教大学 歴史資料保存委員会
 〒270-1347 印西市内野3-301-5-1
 電話:0476-46-1131
 FAX :0476-46-1405
 URL : <http://www.tci.ac.jp>
- 30 東京経済大学
 (運営委員)
 〒185-8502 国分寺市南町1-7-34
 電話:042-328-7955
 FAX :042-328-5900
 URL : <http://www.tku.ac.jp>
- 31 東京女子医科大学
 史料室・吉岡彌生記念室
 〒162-8666 新宿区河田町8-1
 電話:03-3353-8111(内22213)
 FAX :03-3353-8209
- 32 東京女子大学
 大学運営部総務・企画広報課大学資料室
 〒167-8585 杉並区善福寺2-6-1
 電話:03-5382-6289(直通)
 FAX :03-3395-1037
 URL : <http://office.twcu.ac.jp/o-board/archives>
- 33 東京電機大学
 創立100周年記念事業推進本部
 〒101-8457 千代田区神田錦町2-2
 電話:03-5280-3723
 FAX :03-5280-3575
- 34 東京農業大学 図書館
 〒156-8502 世田谷区桜ヶ丘1-1-1
 電話:03-5477-2525
 FAX :03-5477-2639
- 35 東北学院 法人事務局庶務部広報課
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
 電話:022-264-6423
 FAX :022-264-6478
 URL : <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>
- 36 東北大學 史料館
 百年史編纂室
 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
 電話:022-217-5040(史料館)
 022-217-5042(百年史編纂室)
 FAX :022-217-5042(共用)
 URL : <http://www.archives.tohoku.ac.jp>
 URL : <http://www.archives.tohoku.ac.jp/hensan/index.htm>
- 37 東洋英和女学院 史料室
 〒106-8507 港区六本木5-14-40
 電話:03-3583-3325(代)
 FAX :03-3583-3329
 URL : <http://www.toyoeiwa.ac.jp>
- 38 東洋大学 井上円了記念学術センター
 〒112-8606 文京区白山5-28-20
 電話:03-3945-7555
 FAX :03-3945-7601
 URL : <http://www.toyo.ac.jp/enryo/>
 校友会
 〒113-0021 文京区本駒込1-10-2
 甫水会館内
 電話:03-3946-9111
 FAX :03-3946-6311
 URL : <http://www.toyo.ac.jp/koyukai/>
- 39 獨協学園 学園本部事務局総務部
 〒340-0042 草加市学園町1-1
 電話:048-946-1631
 FAX :048-942-4312
 URL : <http://www2.dokkyo.ac.jp/~found120/index.htm>
- 40 日本工業大学 総務課
 〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町
 学園台4-1
 電話:0480-34-4111(代)
 FAX :0480-34-2941
- 41 日本女子大学 成瀬記念館
 〒112-8681 文京区目白台2-8-1
 電話:03-5981-3376
 FAX :03-5981-3378
 URL : <http://www.jwu.ac.jp>
- 42 日本大学 総務部大学史編纂課
 資料館設置準備室
 (監査委員)
 〒102-8275 千代田区九段南4-8-24
 電話:03-5275-8036
 FAX :03-5275-8325
 URL : <http://www.nihon-u.ac.jp>
- 43 法政大学 大学史編纂室
 〒102-8160 千代田区富士見2-17-1
 電話:03-3264-9365
 FAX :03-3264-9639
- 44 宮城学院 資料室
 〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
 電話:022-279-7765

- FAX : 022-279-4707
URL : <http://www.mgu.ac.jp>
- 45 武藏学園 記念室
〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1
電話/FAX:03-5984-3748
URL : <http://www.geocities.jp/sirakigi>
- 46 武蔵野美術大学 大学史史料室
(運営委員・事務局)
〒187-8505 小平市小川町1-736
電話:042-342-6091
FAX : 042-342-5173
URL : <http://www.musabi.ac.jp/history>
- 47 明海大学
浦安キャンパスメディアセンター(図書館)
〒279-8550 千葉県浦安市明海8番地
電話:047-350-4997
FAX : 047-355-7992
URL : <http://opac.meikai.ac.jp>
- 48 明治大学 明治大学史資料センター
(部会長)
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
電話:03-3296-4085
FAX : 03-3296-4086
- 49 立教大学 立教学院史資料センター
〒171-0021 豊島区西池袋3丁目
電話/FAX:03-3985-2790
- 50 立教女学院 学院資料室
〒168-8616 東京都杉並区久我山4-29-60
電話:03-3334-5105
- 51 立正大学 総務部総務課
〒141-8602 品川区大崎4-2-16
電話:03-3492-2681
FAX : 03-5487-3338
URL : <http://www.ris.ac.jp>
- 52 早稲田大学 大学史資料センター
〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1
電話:03-5286-1814
FAX : 03-5286-1815
URL : <http://www.waseda.ac.jp/archives/>
- 個人会員
1 秋山 俱子 (元日本女子大学成瀬記念館)
2 安藤 正人 (国文学研究資料館・史料館)

- 3 石原 一則 (神奈川県立公文書館)
4 伊藤 純郎 (筑波大学 歴史・人類学系)
5 井上 高聰 (北海道大学附属図書館)
6 上田 敏代
(学習院女子大学短大史編纂室)
7 内山 宏 (日仏図書館情報学会)
8 内山 佳明 (株)ニチマイ文教営業部)
9 大沢 泉 (八戸大学商学部)
10 小川千代子(国際資料研究所)
11 神谷 智 (愛知大学文学部)
12 北村 和夫 (聖心女子大学文学部)
13 坂口 貴弘 (慶應義塾大学[院])
14 谷本 宗生
(研究会委員・東京大学史史料室)
15 寺崎 弘康 (神奈川県立歴史博物館)
16 中村 治人 (岡崎女子短期大学)
17 中村 賴道 (企業史料協議会)
18 西山 伸
(運営委員・京都大学大学文書館)
19 日露野 好章
(東海大学課程資格教育センター)
20 藤田 正 (愛媛県歴史文化博物館)
21 古郡 信幸 (清泉女子大学学務課)
22 細井 守
(藤沢市教育委員会博物館準備担当)
23 堀田 慎一郎
(名古屋大学大学文書資料室)

お詫びと訂正

本誌会報No.31の6頁、「全国大学史資料協議会東日本部会2004年度総会議事録(抄)」の出席校に関東学院のお名前が欠落しております。お詫びして訂正いたします。

会報編集

編集委員会

【神奈川大学大学資料編纂室・齊藤研也】
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-11
☎ 045-481-5661

【東海大学学園史資料センター・馬場弘臣・加瀬 大】
〒259-1292 平塚市北金目1117
☎ 0463-58-1211